

LITTLE BIG

第78号 2024.12

発行:福島県立図書館 こどものへや
〒960-8003 福島市森合字西養山1番地
TEL 024-535-3218
<https://www.library.fcs.ed.jp/>

【ごあいさつ】-『LITTLE BIG 準備号』より-

この『LITTLE BIG』は、「子供だけど大人」「大人だけど子ども」という人たちへのメッセージです。図書館の司書たちが読んだ本の中から、気になる文章をピックアップしてお知らせします。みなさん的心のアンテナにひつかかったら、ぜひその文章が載っている本を読んでみてください。

【 Pieces - かけらたち - 】本の中の言葉

当館の職員が読んだ本の中から、素敵な言葉、心に残った言葉を集めました。みなさん的心にも届いたら、ぜひ手にとって読んでみてください。

◆「謝ることはない。主催者には事情を説明してある。出番順を決めるくじは、わたしが念じて最後のほうを引いた。まだ出番までは時間がある」

わたしは成瀬をただの変なやつだと思っていたけれど、この安心感はなんだ。くじの順番を狙って引くことだって、成瀬だったらできる気がしてくる。

『成瀬は信じた道をいく』(宮島未奈／著 新潮社 2024.1 p146)

◆「いい質問だ」パパは見分していた硬貨を置いて、わたしのほうに向いた。「まちがいのおかげで、一セントが四百万倍以上の価値になる。これはどういうことだと思う?」わたしは首を横にふった。

「まちがいは、必ずしもまちがいではないということだよ」パパはいった。「まちがいはチャンスになることもあるんだが、そのときにはわからないんだ。いっても意味わかるかい?」

『わたしのアメリカンドリーム』(ケリー・ヤン／作 田中奈津子／訳 講談社 2022.1 p73)

◆「わ、そうすると歴史が変わるんですね」

「そうなるわね。歴史の解釈は研究が進むにつれて少しずつ変わっていくものよ。ミウが生きている間にも、今は常識だと思っている歴史が変わるはずよ」

そうなんだ。教科書に載っている歴史は変わらないのだと思っていた。研究が進むにつれて歴史が変わるなんて、すごいな。研究する人は自分の研究で歴史が変わるとなると、わくわくするだろうな……。

『なんでファラオは男なの? 古代エジプト女王の源流を探す旅』(山花京子／著 近藤圭恵／画 新泉社 2023.12 p234)

それってホントに
当たり前なの?

「〇〇はみんな好きなもの」「△△は誰もが必ず経験するもの」…こういう言い方、たくさんありますよね。でも、「みんな例外なく好きなもの」って、本当にあるのでしょうか?

『わたしは食べるのが
下手』

天川栄人／作 小峰書店
2024.6 913/テエ

テレビもSNSもおいしいものの情報がいつもいっぱいですが、この小説の主人公・中学生の葵ちゃんは食べるのが苦手です。給食を食べるのが辛いと主張したら「給食ボイコットの主犯」ということになってしまい、「給食改革」の要望書を提出する羽目に。引っ越し思案な少女の人生が動き始めます。

『恋愛ってなんだろう?』

大森美佐／著 平凡社
2024.2 152/オ

恋愛マンガもラブソングも苦手なんだ!というあなたに。この本は、「そもそも、恋愛はするのが普通なのものなのか」という話題から始まります。自分の中に、「恋愛=人生の必須科目」的な価値観があつたら、一回壊してみませんか。

『ひみつのたからもの』

豊福まさこ／作 BL出版
2024.2 P/トマ

最後は絵本です。ネコだけが住む村で、お魚を食べたくない白黒のネコがいました。変なネコ扱いをされますが、村には小鳥を捕まえたくない、しましまネコもいました。ふたり(2匹)はある日、本当に好きなものを教え合うことに……。

人生＆人間ってこういうものだよね、と考え方がカチコチになっていませんか? 本を読んで、柔らかくしましょう!

＼YAの本棚から／

中高生のみなさん(YA)のためのコーナーから、おすすめの本を紹介します。

闇に願いを

クリスティーナ・スントーンヴァット／著
こだまともこ, 辻村万実／訳
静山社 2024.3 【933／スク】



大火の後、火の使用が禁じられ、代わりに総督だけがつくることのできる「光の玉」の使用のみが許されている街・チャッタナー。刑務所で暮らす孤児の少年ポンは、母親が盗みでつかまり刑務所で生まれたため、13歳になるまで出所できません。そして出所しても刑務所で生まれ育ったポンが本当の自由を手に入ることはできない。それに気づき脱獄したポンは老僧にかくまわれ寺で成長しますが、やがて追っ手にみつかり……。

どうあがいてもポンが自由を手に入れる做不到世界で、総督のいう「光は価値ある者のみを照らす」「法に背くものは暗闇とともにある」は本当に正しいのでしょうか。

リーゼ・マイトナー

核分裂を発見した女性科学者
マリッサ・モス／[著] 中井川玲子／訳
岩波書店 2024.3 【289/マ】



女性科学者で一番有名な人はマリー・キュリーでしょうか。歴史上、女性の科学者はマリーの他にもたくさんいました。そして、女性であるという理由で無視されました。物理学者のリーゼ・マイトナーもその一人です。

リーゼはその生涯で不当な扱いを受け続けますが、逆境にあっても優秀で、誠実な研究者であり続けました。彼女が発見した原子核の分裂は、のちに原子爆弾の開発に結び付きました。しかし、リーゼは原子爆弾を作る計画への参加を拒否した数少ない科学者でした。

やさしく書かれた伝記で、戦時の歴史がダイナミックに動いている様子もよくわかる本です。

シンプルとウサギのパンパンくん

マリー=オード・ミュライユ／作 河野万里子／訳
小学館 2024.7 【953/ミ】



高校生のクレベールは、知的障がいをもつ兄のシンプルと、2人で暮らすことを決めます。それというのも母は3年前に他界、父は再婚相手と暮らすため嫌がる兄を施設に入れることしか頭になかったからです。運よくシェアアパートマンで学生達と共同生活を始めますが、クレベールは兄の世話と学校生活の両立や不慣れな共同生活に苦労が絶えません。一方、シンプルはいつもぬいぐるみのパンパンくんと遊んで問題を起こしてばかり。しかし、徐々にではあるものの弟と同居人達はシンプルを理解し、受け入れ、支えることで彼ら自身も変わり始めます。

みんなで世界を変える! 小さな革命のすすめ

佐久間裕美子／[著]
偕成社 2024.3 【309/サ】



「革命」というと過激で危険な印象がありますが、少しでも暮らしやすいあたたかい社会にしていくために、学び考え方行動することを「小さな革命」と著者は言います。

子ども時代、生き辛さを抱えながらもしなやかに過ごした著者は、その後、ニューヨークで学び活動を始めます。そしてたどり着いた「生活者としての小さな革命」という考え方、「聞くこと、気づくこと」を大切にした上でどう行動するか、自らの経験やエピソードなどを交えて語りかけてきます。

大切なのは結果だけではない、一步を踏み出し社会に関わることの面白さに気付かせてくれます。